

臼田協働まちづくりワークショップのテーマ

(第2回WSグループ討議内容)

福祉・医療のまちづくり	活力のあるまちづくり	やさしいまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・佐久総合病院が言っている医・職・食・住・友・遊とは何か、当WSにつなげないか ・地域医療の中身はどのようなものか。医師と患者とまちとの関わり ・医師も人間なのでオーバーワーク改善が必要。そのために市民の側で上手な病院のかかり方についての学習や協力が必要 ・地域医療センターの運営への住民参加をどのように高めるのか ・地域医療センターは病気を治すところでなく、医療に関わる本(医学書)歴史など全国から医を志す人の学びの場も併設できないか ・介護、福祉において地域医療センター・JA・社協・NPO等の連携は将来とも変わらず維持できるか ・地域センター構築と健康都市の一体化(医療と行政) ・地域の高齢化に見合った地域医療センター機能を恒久的に確保できるか ・看護学校の充実は ・市長の健康都市と合わせた老人共生施設のようなものができるか ・付属機関の老人健康施設を病院はどう考えているのか ・病院は今後、在宅介護に力を入れるようになるが、老人だけの家が増えていく中での福祉は大丈夫なのか ・高齢者福祉の取組強化、高齢化に拍車がかかるのでは ・高齢者、障害者にやさしいまちづくり(バリアフリー) ・病院(医療)と介護、福祉との調和、連携したまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ①空き店舗、空家の有効活用 ②訪問診療、訪問介護、訪問助け合い ・老人科の必要性を感じる。高齢社会に向かっている今、高齢者介護の認定を精神科では受けたがらない。介護関係者から早期に受けていればこんなに大変にならない ・医療センター構築と健康管理 ・健康管理(健康増進)の為に生活環境、交通環境の整備 ・新しい病院は新しい街に合わせて作る必要がある ・病院が病院の施設(病院本体、医師住宅、看護学校、駐車場)をどのようにまとめるか意見を聞きたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の流れがどうなるのか ・臼田地区からの人口の流出(子どもたちの減少、過疎化) ・臼田の人口を増やす対策を考える ・若年層(生産人口)の流出に拍車がかかるのではないのか ・昼間の流入人口の減少により地域の人口減少に拍車がかかるのでは ・人口が減ることを踏まえてまちづくりを考える必要性 ・看護専門学校について、看護師、療法士の養成に努め、まちの住民増加にしていきたい ・分離に伴う患者、人の流れの影響度合いが予測できない(周辺、商店街他) ・病院移転に伴う人口減少に対する不安 ・臼田の町内が寂しくなる ・地域を支えている商店街の今後 ・雇用の場の減少 ・受診する患者数の減少により周辺の商店等の客数が減り、町が寂れる ・人の流れが少なくなり、商業等が寂れるのでは ・分割移転に伴い地元商店への影響が不安である ・地域の人口減少が商店等の減少につながる。ひいては臼田のコミュニティの形式もできなくなるのではないか ・人口、交流人口の減少により商業の衰退につながる ・地域医療センターになった時、地域交通(バス等)が不便になることはないか ・地域医療センターになった時に外来患者数も減ることになり商業等への影響が懸念される ・基幹部分の移転、現行規模縮小による臼田地域内の空洞化の懸念 ・地域医療センターにおける健康管理、医療、福祉の活動の展開に伴って、臼田で新たな仕事の創出(雇用拡大)ができないか ・病院の業務に対してシルバー世代の方々の採用ワークシェアリング ・病院の規模が小さくなってしまいうので臼田地区の雇用が減ってしまうのではないのか ・地元市民の生活の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備の遅れ ・道路網(病院東側)がどうなるのか ・地域医療センターを再構築した場合、行政は道路整備等を計画しているのか ・河川敷の駐車場の活用方法 ・病院土地の利用方法 ・佐久市の都市計画の見直しがされ了承されたと報道されているが中身が知りたい ・臼田橋上流河川敷整備、グランド等 ・病院→街 街→病院への通路、歩道に格差が大きい。病院と商店街との動線良くない ・駐車場→中央公園化 ・臼田駅、龍岡城駅から医療センターへの歩道アクセス ・河川敷の駐車場の使用は臼田地区で決めてよいのか ・現在の佐久病院周辺の歩道環境が悪い(車イスでの移動が不安) ・稲荷山公園の整備(駐車場、展望風呂) ・親水公園の早期完成 ・遊歩道の整備 ・公共交通が不便になるのでは ・安全な生活環境 <ul style="list-style-type: none"> ①清涼な自然 ②安全な食物 ③安全な子育て

臼田協働まちづくりワークショップのテーマ

(第3回WSグループ討議内容)

福祉・医療のまちづくり	活力のあるまちづくり	やさしいまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療の研修の受入れ施設として全国に発信する ・院内の食事を充実して欲しい 病院食 一般の食堂の食事 ・安心して子どもを産み育て、不安なく老いていかれるまちづくり ・「少死高齢社会」に対応するまちづくり ・病院交番 入浴施設（老人施設、爪きりサービス） ・病院交番をつくる 長老（元医師）、研修医など 禁煙、女性相談、禁酒、介護、ビデオ、爪きり助けなど ・高齢者を大事にした周辺全てを ・高齢化社会が進行する中で、老人にやさしいまちづくり ・地域医療センターは、特に老人対応日本一のような施設にして欲しい ・健康長寿 ・健康増進施設の設置 ・市長の世界最高健康都市の具体的な施設を併設できないか ・「臼田」としての特徴、特色を活かしたまちづくり →地域密着（医療、保健、福祉）の先端となる ・長寿県 長野でもっとも進んだモデル地区をイメージしたまちづくり ex. 末病の促進、フォロー充実 ・福祉、介護について ・高齢者が増えていくため、介護予防に向け病院の各専門スタッフが地域に出向いていく→高齢者への対応したモデル地域にしていく ・上手な病院へのかかり方を市民と病院とで学習や話し合いの場を持ち、ともに成長していく必要がある ・人々が交流するまちづくり ・地域医療センターの運営への市民参加 ・病院と市民との話し合う場が、年3回ぐらい欲しい ・医療のみならず、佐久病院と地域の関わり ・地域医療センターに小児科、産科医を仕方ないですが、親としては不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院と駅を結んだ地域（商店街も含めて）を中心に人の集まるまちづくり ・学生、研修生の集まるまち→佐久病院にはたくさんの方が実習、研修に来るので、まちのよさを知ってもらおう ・院内に有機野菜を使ったレストランをつくる ・待ち時間に利用できる図書館（院内に） まちの人でも利用できる ・院内に商店コーナーを ・臼田のアピール 有機栽培 ・特産物を活かしたまちづくり ・臼田の農産物（プルーンなど）を使った商品開発でまちを盛り上げる ・地元商店だけでなく、他地域からも出店してもらおう ・臼田の文化を広める ・魅力あるまちづくり ・星のまち臼田を中心としたまちづくりをもう一度見直す →子どもを集める ・特産物で病院食、健康食 りんご、プルーン、米、酒等 ・食と自然で心のおもてなし リピーターを ・天…空気は清い 地…産物が豊か 人…人情がこまやか これを活かすこと ・他の地域にないカラーをつくるまちづくり ・夢を描くまちづくりを 臼田なら出来るまち ・町おこしグループ（パラボラアンテナ、はやぶさ、地産地消など） ・人が集まるまちづくり 病院に頼らず活性化 ・テーマパークを病院に併設する（フィットネスクラブ、リハビリセンター、老人施設） ・看護専門学校を拡充する 学科を増やして学生を増員し市民の増に努める ・学生が有意義に過ごせるまちづくり ・看護学生と住民の交流できる場づくり ・自給自足 農業を始めたい都会の若者を集める工夫、空き家の利用など ・大きいお風呂を作る みんなが集まれる場所 ・人の流れが絶えないまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院につながる道路の整備（利用しやすさ、途中で公園、野菜の直売所他） ・河川敷側の道路を整備して欲しい（やさしいまちづくり） ・千曲川（病院駐車場隣接）の河岸を遊歩できるようにする ・龍岡城駅から病院の道路を整備する（コンクリート×） ・臼田の観光地は？と問われたがない まち全体が観光地の気分でもちをきれいにする ・住みたくなるようなまちづくり（健康、人にやさしいーボラティアの活用、安心・健康・安全、自然の豊かさ） ・河川敷の木を切って、チップとし農家や希望者に提供することはできないか（庭の植木も） ・子どもが自由に行動、遊べる場所づくり ・子どもは元気な子、学ぶ子、遊べる子、そんな子の育つまち ・豊かな自然 子どもの遊び場、農業体験ツアー一等 ・回復期の遊歩道 千曲川等 ・市街地再編イメージ図 ・質問要望だけでなく、自ら取り組むまちづくり ・再構築への要望だけでなく全体のまちづくり ・旧議場の活用は（健康何でもコーナー、若月コーナー、医療のことなら何でもわかる図書室など） ・病院周辺の自然を活かした環境整備（患者も住民も心が和むエリア） ・千曲川両岸の歩道整備（臼田橋から住吉橋をつなぐ歩道） ・臼田小と臼田中をつなぐ橋をかけたい（歩道だけ 小・中の一体化） ・「移動」「移送」の手段をつくる ・看護学生が臼田地区で楽しい生活が送れるようなまちづくり 活性化 ・若い人たちがまちの中を満足して歩き回ることで出来る思い出深いまちづくり ・生活に必要な施設の集約 ・交通弱者にやさしい（巡回バスの充実、デマンドタクシー） ・地域医療センターの工事も出来るところから並行して進めて欲しい（工事用道路等） ・まちづくり基本計画はできないか（国、県の協力を得る）

臼田協働まちづくりワークショップのテーマ

(第3回WSグループ討議内容)

福祉・医療のまちづくり	活力のあるまちづくり	やさしいまちづくり
	<ul style="list-style-type: none"> ・病院と商店街が連携したまちづくり 患者さん、お客さんが回遊できる商店街づくりをしたい 病院の職員が楽しめる広場(スペース)も検討したい ・患者がお客として立ち寄りやすい魅力ある商店街にしていく ・病院と一体化した商店街 ・看護学校の学生等、若者が生き生きと活動できるコミュニティー広場 ・病院の再構築計画に基づく臼田の変化、シュミレーションを専門家に調査してもらい対策を考える ・県知事の仲人で病院問題が進んだ。県にもう少し臼田の困っている問題の対策をお願いすべきだ ・「臼田の子どもたちの未来のために」 臼田といえば〇〇！ スポーツなどを核として ・臼田看護学校の4年制化を！ ・病院と連携しながら地元商店街の活性化を進めていく ・「病院通貨」の発行 ・商業への影響 商店等への客数の減少 臼田地域の空洞化の懸念 人口の減少 商店の減少→商工会の衰退 ・地域医療センターにおける臼田地域内での新たな雇用 ・新たな雇用創出 ・地元での雇用の減少への不安 地域医療センターにおける新たな雇用への期待 病院での雇用の減少 若者の流失 後継者不足 ・人口が減ることばかり考えるのではなく、人口を増やすことを考えて用途地域の見直し、農振地域の解除等を考えていく ・しっかりとした医療機関があることは、住みたくなるまちである ・病院関係者(医者等)への対応 住宅など 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して暮らせるまちづくり ・地域医療センター完成後のまちづくりの構想 地域医療センターを前向きに捉える ・新たにできる地域医療センター周辺の道路を含む整備について ・「皆で考えるインフラ整備」 計画段階から行政ではなく、皆が決める ・病院周辺の道路と人との交流！ ・介護、福祉、健康をテーマとした公園、遊歩道の整備 ・環境にやさしいまちづくり 広い土地、太陽光など ・地域医療センター周辺の環境整備 ・病院への公共交通網整備 (基幹センターから地域センターへのバスの整備、巡回バスなど) <p>「行政から経済的援助はしない」意見として恥ずかしい最新の情報をワークショップが知るための対応は市はどの程度お金を出すのか</p>